

## 第1回 印旛沼流域水循環健全化会議

日時：平成13年10月18日(木) 13:30～16:00

場所：千葉県文書館 6F 多目的ホール



### 委員長挨拶（虫明委員長）

環境省の定義するものとは表現が異なるが、健全な水循環とは、流域を対象に治水、利水、環境のそれぞれにおいて、一つの目的として達成しようとするものではなく、これらの目的をバランスよく達成し、後世に伝えられるようなものとしようというものであると認識している。これは、それぞれの司々を担当している行政官がいかに連携をとることができるか、そして、環境団体をはじめとする市民といかに意見交換を行いPI(パブリックインボルブメント)を達成していくかがポイントである。諸外国でもうまくいっているものではないだけに、今回の取り組みは、印旛沼で社会実験をやっていこうということだと認識している。

### 質疑応答

#### 1. NPO 代表者

白鳥：私がお伺いしたい点は次の通りである。

1. 水循環の保全には流域の土地の保全が一番大切である。例えば林、畑等
2. 畑地からの窒素の流出に対する対応策をどうするのか検討していただきたい。
3. 施策の効果で最も効果的であると思われるのは、印旛沼の流動化である。
4. 利根下流工事事務所に、これまで調査してきた資料の情報開示をお願いしたい。
5. 印旛沼流域にはNPOが集合できるような活動拠点がないので、施策の中に入れてほしい。

#### 利根川下流工事事務所長

4. に関して、要請があれば、調査結果を開示する。

高柳：私達は、昨年5月より野菜筏を利用して印旛沼の水質浄化の実験を行なっている。

始めた当初は真っ黒の水面でメタンガスが発生していたが、最近ではメダカ、ドジョウ、真フナが戻ってきている。CODも、沼では12mg/lだが、野菜筏周辺では5mg/lぐらいまで下がっている。

ヨシやヒシによる水質浄化が国土交通省から提案されているが、その方法ではダメだ。なぜなら、それらの植物は繁茂した後、撤去しきれない分は9月頃から腐り始めドロドロになってしまい、結局水質悪化を引き起こすからである。

野菜筏には、水質浄化の効果以外にも利点がある。それは、ヘドロの吸収である。科学的な理由は不明だが、野菜筏の周辺ではヘドロの量が大幅に減少している。これは水槽を用いた実験でも同様の結果が得られた。ぜひ、おこしの先生方に野菜筏(使用野菜はクーシン菜)のヘドロの吸収機構を究明していただきたい。

吉谷委員

ヘドロの変化が野菜等の植生によるものかどうかについて、データがないと分析・考察を行うことができないため、この場で回答できない。

大田：部会等、NPOも議論に参加できる体制を取ってほしい。

虫明委員長

部会は、各行政間の連携をどうするのかを目的として設置している。今後、施策の実施を検討する際に、NPOの参加が必要であると考えている。

## 2. 委員からの意見・指摘

### 【虫明委員長】

- ・ 今回の資料では、個々の項目については記されていると思うが、本会議の中長期的なビジョンをどのように考えているのか。
- ・ 今年の成果としては何を考えていて、今後は何をやろうと考えているのか。

事務局

今年度の検討では、印旛沼水循環健全化の計画の策定までを考えている。大まかな計画の枠組みを決め、施策の優先順位を策定し、来年以降は施策の実施状況をチェックする。まずは、今年できることと、今後行っていくことを区分して進める。

- ・ 私としては、今年度はせいぜい印旛沼の将来像計画の策定までであり、計画を策定し、その実施までは難しいと思うし、連携を取っていかなければならない行政関係者全員が短期間で共通認識を持つことは難しい。
- ・ それよりも委員会ですっかり将来像を議論した方よい。あまり拙速に進めるとうまくいかないと思う。

### 【味埜委員】

- ・ 水循環健全化会議という名称はとても良いと感じた。
- ・ いきなり各論の議論に走りすぎている感じを受けた。
- ・ 例えば、平成22年を目標にしているなら、まず、その将来像に関して議論を行うべきである。
- ・ 現段階では、印旛沼において、将来何をを目指すのかが見えていないと思う。

- ・ 資料で挙げている課題も大事であるが、水循環という視点での課題を挙げてほしい。
- ・ 千葉県の都市化という将来像は、健全な水循環を壊すものである。そこで、健全な水循環をどの程度まで、どのように作っていくのかが重要な議論になるのではないか。
- ・ 水循環の健全化という視点で、将来の印旛沼を目指す姿を議論する必要がある。
- ・ 水循環という視点で、流域の都市化、緑、農業生産、治水、利水、生態系、環境などの様々な要素を考え、トータルで魅力ある街をつくる。そのようなコンセンサスを作ることが必要ではないか。

#### 【藤井委員】

- ・ 千葉県の将来像計画では印旛沼流域は将来都市化が進む方向となっている。それにより産業構造、または農業は今後どのように変化するかについて、千葉県として、どのように考えているのか。
- ・ 今後産業がどのように変化するかによって、土地の浸透が変化し、水循環も変化する。
- ・ 農地からの負荷は確かに問題であるが、現在では施肥量を減らす方向で進んでおり、法律も新たに策定されている。これらを踏まえた千葉県全体の将来像を示して欲しい。
- ・ 私自身としては、個々の議論を行っていくのもいいと思っている。ただしその場合、自然系負荷（農地からの負荷）は産業・土地利用等に関わってくるため、将来の印旛沼がどのような産業構造となるのか想定しておく必要がある。

#### 【吉谷委員】

- ・ 水循環という言葉の意味は、次のようなたとえられる。昔、建設省は中小河川を3面張りのコンクリートで固めてきた。しかし、今は生態系の事も考える必要がある。治水の事だけ考えるのではなく、生態系も含めて全体をうまくコーディネートする事が必要となってきている。
- ・ 水循環についても、個別に議論を行ってはいこれまでと同じであり、全体を俯瞰するような視点で議論を行うべきである。
- ・ 印旛沼の将来像として、トータルで魅力のあるまちづくりを行うことが重要である。

#### 【高橋アドバイザー】

- ・ 水循環という名称の会議であるが、将来的なプランが見えない。
- ・ 今後どういった方向に検討を進めて行くのかが大事である。
- ・ まずは、水循環健全化のための目標を決め、次に目標を達成するための手段（施策）を検討すべき。

- ・ 資料の誤字脱字には、十分注意する。

### 【虫明委員長】

- ・ 印旛沼の将来像計画に対し、もっと大枠の話を出して議論を進めるべき。
- ・ 水循環の健全化は目的ではなく、あくまで手段である。目的は水を介すことによって、よりよいまちづくりを行うことだと思う。
- ・ 流域における河川流量などのデータや観測体制が整っていない状況においては、計画を策定し、今後の施策を挙げることはできるが、効果の検証を行うことはできない。
- ・ 観測（モニタリング）をどのような体制で行うのかといったことも重要であり、行政内部で議論してほしい。データによって物事を判断していくことは重要である。
- ・ 全体像が見えないと、今後どのように検討を進めて行くのかが見えてこない。
- ・ 行政の各部局で考え方は異なると思うが、それを認識することが重要である。印旛沼流域で一体何が一番大事かを議論する必要がある。各部局が栄えるという視点ではなく、印旛沼流域が栄えると言う視点に立って議論をすべきである。
- ・ 部会が治水と環境の2つに分かれているが、同じ施策を異なる観点から検討し、歩調がバラバラということはないようにしてほしい。例えば、雨水浸透は治水と環境の両方に関わってくる施策である。
- ・ 私の経験として、海老川（流域面積約30km<sup>2</sup>）でも、数年かかってようやく行政間の連携・共同認識が出来た。印旛沼流域はその数十倍もあり、行政間の連携・共同認識の構築には多大な労力時間がかかることが予想される。そのため、今年度は拙速に進めず、半年は短いですが、水循環健全化の準備会という位置付けとしてはどうか。
- ・ 今年度は行政間の連携についての議論を行い、来年度以降実施段階において地域住民とともに議論するとしてはどうか。